

# 製鉄学習 伝統は続く

一関・大原小（佐藤啓校長、児童97人）の6年生24人は7日、一関市大東町内野地区の砂鉄川たたら製鉄学習館で、昔ながらの鉄作りを体験した。前身の内野小時代から続く、地元の歴史を学ぶ学習で通算25回目。子どもたちは先人たちが育んだ製鉄の伝統に思いをはせた。

大原小卒業生が7月末に たら炉を使用。児童はたた製作した、記念の「25」が 製鉄の継承に取り組むホ刻まれた屋内外2カ所のため、ツパの会（菊池文悦会長）

## 一関・大原小6年生



炉に入れる木炭を割る子どもたち

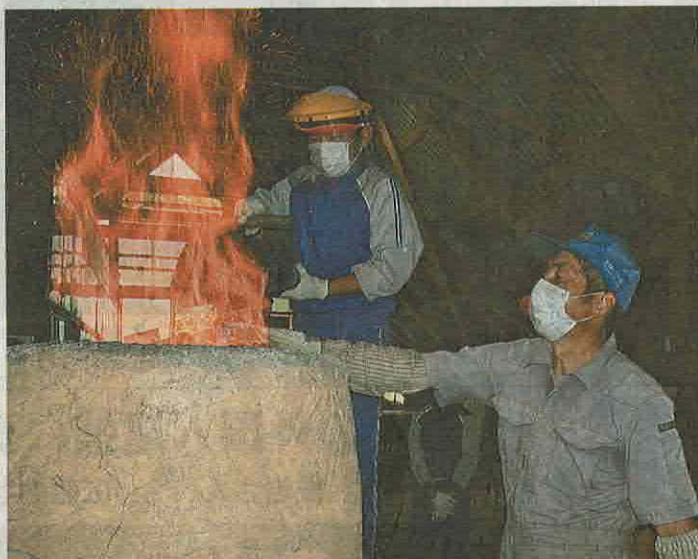
## 地域一体、通算25回に 砂鉄産地の歴史を体感

の指導の下、8月に採取した砂鉄などを計70キほど入れ、炎が燃えさかる中で作業に励んだ。

カミングス未来君は「炉

が大きく、材料を流し入れるのが怖く感じることもあったが楽しかった。自分たちが取った砂鉄が形になるのがうれしい」と笑顔。出上上がった20キほどの鉄は、奥州市の鑄造会社で卒業記念品の文鎮に成形される予定。金野陽菜多さんは「この鉄を使った文鎮をずっと大切にしたい。この伝統を、下の代まで守ってい

きたい」とうなずき、砂鉄の一大産地だ史や、地域が守って、続文化を後世につため、1999年にの「ふるさと学習」が始まった。2010原小への統合後も学習員らが共同し、続る。地元に残る豊富な生かした学び。開始野小校長を務めている会の加藤功子さん（80）は「地域となり進めてきた定み。子どもたちにはながら郷土の歴史をてほしい。大人になつてほしい。下世代に語り継いでくれたらいい」と。（佐々木



ホッパの会会員らの指導の下、鉄作りに励む児童